

7課

愛の姿

8月15日

安息日午後

8月8日

暗証聖句

このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。(Iコリント 13:13、口語訳)

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。(Iコリント 13:13、新共同訳)

今週の聖句

Iコリント 13章、マタイ 24:12、ガラテヤ 5:22、23、Iテモテ 1:14、
Iヨハネ 4:8

今週のテーマ

愛はすべてを克服します。だからこそ、パウロは愛について多くのことを語りました。新約聖書で愛の概念をあらわす最も一般的なギリシア語の「アガパオー」とその関連する語は、パウロの書簡の中で135回以上登場しており、それは新約聖書全体における登場回数のほぼ半分に相当します。このことは、パウロがコリントの教会へ送った手紙の中心主題について教えているようです。

新約聖書には、愛に関して注目すべき箇所が数多くあります(ロマ 8:35~39、Iコリ 2:9、8:3、ガラ 2:20、コロ 1:13、Iテサ 3:12など)が、Iコリント13章に匹敵するものはありません。

先週、私たちは、愛がなければ、たとえ霊的な賜物であっても、すべては無価値であるということを学びました。今週は、Iコリント13章と、そこに描かれている愛のすばらしい姿をさらに深く掘り下げていきます。

これから見ていくように、愛は感情というよりも、むしろ態度であり、その態度は、言葉や行動として、生活の中に表現されなければなりません。そうでなければ、意味がないのです。

愛が真にどのようなものであり、どのようなことをするのかは、イエスの生涯の中に完全に示されています。

ロマ 8:35～39 （新共同訳）

8:35 だが、キリストの愛からわたしたちを引き離すことができます。艱難か。苦しみか。迫害か。飢えか。裸か。危険か。剣か。

8:36 「わたしたちは、あなたのために／一日中死にさらされ、屠られる羊のように見られている」と書いてあるとおりです。

8:37 しかし、これらすべてのことにおいて、わたしたちは、わたしたちを愛してくださる方によって輝かしい勝利を収めています。

8:38 わたしは確信しています。死も、命も、天使も、支配するものも、現在のものも、未来のものも、力あるものも、

8:39 高い所にいるものも、低い所にいるものも、他のどんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスによって示された神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのです。

1 コリ 2:9 （新共同訳）

2:9 しかし、このことは、「目が見もせず、耳が聞かぬもせず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は御自分を愛する者たちに準備された」と書いてあるとおりです。

1 コリ 8:3 （新共同訳）

8:3 しかし、神を愛する人がいれば、その人は神に知られているのです。

ガラ 2:20 （新共同訳）

2:20 生きているのは、もはやわたしではありません。キリストがわたしの内に生きておられるのです。わたしが今、肉において生きているのは、わたしを愛し、わたしのために身を献げられた神の子に対する信仰によるものです。

コロ 1:13 （新共同訳）

1:13 御父は、わたしたちを闇の力から救い出して、その愛する御子の支配下に移してくださいました。

1 テサ 3:12 （新共同訳）

3:12 どうか、主があなたがたを、お互いの愛とすべての人への愛とで、豊かに満ちあふれさせてくださいますように、わたしたちがあなたがたを愛しているように。

ロマ 8:35～39 （口語訳）

8:35 だが、キリストの愛からわたしたちを離れさせるのか。患難か、苦悩か、迫害か、飢えか、裸か、危険か、剣か。

8:36 「わたしたちはあなたのために終日、死に定められており、ほふられる羊のように見られている」と書いてあるとおりである。

8:37 しかし、わたしたちを愛して下さったかたによって、わたしたちは、これらすべての事において勝ち得て余りがある。

8:38 わたしは確信する。死も生も、天使も支配者も、現在のものも将来のものも、力あるものも、

8:39 高いものも深いものも、その他どんな被造物も、わたしたちの主キリスト・イエスにおける神の愛から、わたしたちを引き離すことはできないのである。

1 コリ 2:9 （口語訳）

2:9 しかし、聖書に書いてあるとおり、「目が見えず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮かびもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」のである。

1 コリ 8:3 （口語訳）

8:3 しかし、人が神を愛するなら、その人は神に知られているのである。

ガラ 2:20 （口語訳）

2:20 生きているのは、もはや、わたしではない。キリストが、わたしのうちに生きておられるのである。しかし、わたしがいま肉にあって生きているのは、わたしを愛し、わたしのためにご自身をさげられた神の御子を信じる信仰によって、生きているのである。

コロ 1:13 （口語訳）

1:13 神は、わたしたちをやみの力から救い出して、その愛する御子の支配下に移して下さった。

1 テサ 3:12 （口語訳）

3:12 どうか、主が、あなたがた相互の愛とすべての人に対する愛とを、わたしたちがあなたがたを愛する愛と同じように、増し加えて豊かにして下さるように。

I コリ 13 章 (新共同訳)

13:1 たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル。

13:2 たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。

13:3 全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

13:7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

13:8 愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

13:9 わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。

13:10 完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。

13:11 幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。

13:12 わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。

13:13 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

I コリ 13 章 (口語訳)

13:1 たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じである。

13:2 たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識とに通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。

13:3 たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

13:7 そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

13:8 愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるであろう。

13:9 なぜなら、わたしたちの知るところは一部分であり、預言するところも一部分にすぎない。

13:10 全きものが来る時には、部分的なものはすたれる。

13:11 わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。

13:12 わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。

13:13 このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。

先週、私たちは、I コリント 13章に見られるような愛という主題に触れました。ここでは、パウロの言葉をさらに深く掘り下げていきます。

問1 I コリント 13 章を読み、パウロが語っている愛を要約してください。

パウロは、異言〔口語訳・言葉〕(I コリ 13:1)、預言、神秘(奥義)、知識、信仰(同 13:2)、慈悲(同 13:3)といったものが無用だと言っているのではありません。それらが愛によって突き動かされたものでないならば、無用だということです。

パウロが語る愛は、「イチゴが好きだ」「友だちが大好きです」「妻(夫)も子どもも愛しています」といった言葉で表現される類いのものではありません。映画で描かれるような愛でもありません。また、この箇所は結婚式の説教でよく用いられていますが、性的な愛でもありません。

この愛は、愛情、博愛、徳、慈悲といったものに単純化できるものではありませんが、それらはみな、程度の差こそあれ、この愛をあらわしています。この愛は、聖霊によって私たちに与えられた特別な恵みです。実際、I コリント13章にある愛は、聖霊によって与えられる動機であり、私たちを愛情、博愛、徳、慈悲をもって行動するように導きます。それは、私たちの行動、感情、思いをキリストと隣人に完全にささげることです。

問2 マタイ 24:12 を読んでください。イエスはここで、どんな警告を与えておられますか。

だからこそ、アガペーが必要不可欠なのです。私たちはキリストの力によって、家庭、教会、地域社会において愛が冷えてしまうのを許してはなりません。私たちには、十字架の上で私たちのために死んでくださったキリストの模範があります。この種の愛(アガペー)を、これ以上に力強く、的確にあらわすものがあるでしょうか。言うまでもなく、私たちはこの種の愛をキリストと同じようにあらわすことはできませんが、神の恵みによって、できる限り自分の生活の中でこの愛をあらわそうと努めるべきです。

これまでに、この種の愛の表現が、それを何よりも必要としていた人に対して、実際に力強く前向きな印象を与えたのは、どんな時でしたか。

47

I コリ 13 章 (新共同訳)
13:1 たとえ、人々の異言、天使たちの異言を語ろうとも、愛がなければ、わたし

I コリ 13 章 (口語訳)
13:1 たといわたしが、人々の言葉や御使たちの言葉を語っても、もし愛がなければ

は騒がしいどら、やかましいシンバル。

13:2 たとえ、預言する賜物を持ち、あらゆる神秘とあらゆる知識に通じていようとも、たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持っていようとも、愛がなければ、無に等しい。

13:3 全財産を貧しい人々のために使い尽くそうとも、誇ろうとしてわが身を死に引き渡そうとも、愛がなければ、わたしに何の益もない。

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

13:7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

13:8 愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

13:9 わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。

13:10 完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。

13:11 幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。

13:12 わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔とを合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。

13:13 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

マタ 24:12 (新共同訳)

24:12 不法がはびこるので、多くの人の愛が冷える。

ば、わたしは、やかましい鐘や騒がしい鏡鉢と同じである。

13:2 たといまた、わたしに預言をする力があり、あらゆる奥義とあらゆる知識に通じていても、また、山を移すほどの強い信仰があっても、もし愛がなければ、わたしは無に等しい。

13:3 たといまた、わたしが自分の全財産を人に施しても、また、自分のからだを焼かれるために渡しても、もし愛がなければ、いっさいは無益である。

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

13:7 そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

13:8 愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるであろう。

13:9 なぜなら、わたしたちの知るところは一部分であり、預言するところも一部分にすぎない。

13:10 全きものが来る時には、部分的なものはすたれる。

13:11 わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。

13:12 わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔とを合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。

13:13 このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。

マタ 24:12 (口語訳)

24:12 また不法がはびこるので、多くの人の愛が冷えるであろう。

I コリント13:4～7は、この章の中心です。パウロは愛の特徴に焦点を合わせ、愛とはどんなものであり、どんなものでないか、愛はどんなことをし、どんなことをしないかを示しています。彼は、聖霊に突き動かされた愛に満たされた人がどう振る舞うかを垣間見ることができるよう、愛を擬人化し、その描写において一連の動詞を用いています。パウロにとって愛とは、気持ちや情緒というよりも、行動にあらわれるものなのです。

では、愛はどんなことをするのでしょうか。

1. 忍耐を示す(マクロテュメオー)。「マクロテュメオー」とは、困難な状況においても忍耐を示すという意味です。忍耐はまた、互いに寛容である能力も際立たせます(エフェ[エペ]4:2)。

2. 情けを示す(クレステウオマイ)。「クレステウオマイ」は、新約聖書の中でここにしか出てきませんが、同じ語根を持つ言葉は、ほかの箇所でもよく使われています。七十人訳聖書(旧約聖書のギリシア語訳)では、この語根の言葉が詩編(詩篇)に頻出し、神の憐れみと結びついた情けを指しています(詩編[詩篇]145:9)。パウロは、「愛は情け深い」[口語訳「愛は情深い」]と言うことで、他者への愛が、私たちに対する神の思いやりと憐れみに倣うべきだということを示しています。

3. 真実を喜ぶ(スンカイロー)。「スンカイロー」は、ほかの人と共に喜びを経験する能力を意味します(ルカ 1:58、15:6、9、I コリ 12:26、フィリ[ピリ]2:17、18)。

4. すべてを忍ぶ(ステゴー)。「ステゴー」が「覆う」、つまり何かを(保護の意味を含めて)秘密にしておくという意味なのか、それともしなやかな強さをもって「耐える」という意味なのか、学者の間で議論があります。耐え忍ぶという概念が I コリント9:12に明確に見られるので、ほとんどの注釈者や翻訳者は、後者の可能性が高いと考えています。

5. すべてを信じる(ピステウオー)。「ピステウオー」は、「信仰」に相当するギリシア語の「ピスティス」と同じ語根です。I コリント 13章の文脈において「すべてを信じる」とは、疑うよりも互いに信頼することの意味します。

6. すべてを望む(エルピゾー)。新約聖書において「エルピゾー」という動詞は常に、何か良いことが起こると信じる、または期待することを指します。

7. すべてを耐え忍ぶ(ヒュポメノー)。I コリント 13:7の動詞「ステゴー」と「ヒュポメノー」に違いはないようです。これらは同義語であり、ここでは困難の中での忍耐を意味します。パウロは、「ステゴー」の繰り返しを避けるために、この節の最後に「ヒュポメノー」を使用しているのです。彼は、異なる言葉を用いて同じ概念を繰り返すことによって、中心点である「信じること」と「望むこと」に注意を引きつけています。言い換えれば、愛は、信じることと望むことによって耐え忍ぶのです。

【参考】英語テキストにある文

Compare 1 Corinthians 13:4-7 to Galatians 5:22, 23. What ideas in common do you see between the two passages? How can we manifest this kind of love in our own lives?

I コリント 13:4~7 とガラテヤ 5:22、23 を比べてみて下さい。この二つの箇所には、どのような共通点が見られますか。私たちは、自分の生活の中で、この種の愛をどのように示すことができるでしょうか。

48

I コリ 13:4~7 (新共同訳)

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

13:7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

エフェ 4:2 (新共同訳)

4:2 一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、

詩 145:9 (新共同訳)

145:9 主はすべてのものに恵みを与え、造られたすべてのものを憐れんでくださいます。

ルカ 1:58 (新共同訳)

1:58 近所の人々や親類は、主がエリサバトを大いに慈しまれたと聞いて喜び合った。

ルカ 15:6、9 (新共同訳)

15:6 家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう。

15:9 そして、見つけたら、友達や近所の女たちを呼び集めて、『無くした銀貨を見つけたから、一緒に喜んでください』と言うであろう。

I コリ 12:26 (新共同訳)

12:26 一つの部分が苦しめば、すべての部分が共に苦しみ、一つの部分が尊ばれれば、すべての部分が共に喜ぶのです。

フィリ 2:17、18 (新共同訳)

2:17 更に、信仰に基づいてあなたがたがいけにえを献げ、礼拝を行う際に、たとえわたしの血が注がれるとしても、わたしは喜びます。あなたがた一同と共に喜びます。

2:18 同様に、あなたがたも喜びなさい。わたしと一緒に喜びなさい。

I コリ 13:4~7 (口語訳)

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたまことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

13:7 そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

エペ 4:2 (口語訳)

4:2 できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、

詩 145:9 (口語訳)

145:9 主はすべてのものに恵みがあり、そのあわれみはすべてのみわざの上にあります。

ルカ 1:58 (口語訳)

1:58 近所の人々や親族は、主が大きなあわれみを彼女におかけになったことを聞いて、共どもに喜んだ。

ルカ 15:6、9 (口語訳)

15:6 家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけたから』と言うであろう。

15:9 そして、見つけたなら、女友だちや近所の女たちを呼び集めて、『わたしと一緒に喜んでください。なくした銀貨が見つかりましたから』と言うであろう。

I コリ 12:26 (口語訳)

12:26 もし一つの肢体が悩めば、ほかの肢体もみな共に悩み、一つの肢体が尊ばれると、ほかの肢体もみな共に喜ぶ。

ピリ 2:17、18 (口語訳)

2:17 そして、たとい、あなたがたの信仰の供え物をささげる祭壇に、わたしの血をそそぐことがあっても、わたしは喜ぼう。あなたがた一同と共に喜ぼう。

2:18 同じように、あなたがたも喜びなさい。わたしと共に喜びなさい。

I コリ 9:12 (新共同訳)

9:12 他の人たちが、あなたがたに対するこの権利を持っているとすれば、わたしはなおさらそうではありませんか。しかし、わたしたちはこの権利を用いませんでした。かえってキリストの福音を少しでも妨げてはならないと、すべてを耐え忍んでいます。

ガラ 5:22、23 (新共同訳)

5:22 これに対して、霊の結ぶ実は愛であり、喜び、平和、寛容、親切、善意、誠実、
5:23 柔和、節制です。これらを禁じる掟はありません。

I コリ 9:12 (口語訳)

9:12 もしほかの人々が、あなたがたに対するこの権利にあずかっているとすれば、わたしたちはなおさらのことではないか。しかしわたしたちは、この権利を利用せず、かえってキリストの福音の妨げにならないようにと、すべてのことを忍んでいる。

ガラ 5:22、23 (口語訳)

5:22 しかし、御霊の実は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、善意、忠実、

5:23 柔和、自制であって、これらを否定する律法はない。

火曜日	8月11日	愛がしないこと
-----	-------	---------

問3 I コリント 13:4～7 を読み直してください。なぜパウロは、愛がする肯定的な面だけでなく、愛がしない否定的な面にも言及しているのですか。

愛がしない八つのことを見てみましょう。愛は、次のことをしません。

1.ねたまない(ゼロオー)。「ゼロオー」は、「もっと大きな賜物を受けるように熱心に努めなさい」〔口語訳「更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい」〕(I コリ 12:31)、「霊的な賜物……を熱心に求めなさい」〔口語訳「霊の賜物を、……熱心に求めなさい」〕(同 14:1)といったように、肯定的にも用いられます。しかし、ここでは否定的な意味です。霊的な賜物を熱心に求めるのは構いませんが、賜物を持つ人をねたんではいけません。それは分裂を引き起こします(I コリ 3:3)。

2.自慢しない(ペルペレウオマイ)。「ペルペレウオマイ」という動詞は、傲慢さや、他人から賞賛されたいという強い欲求を含んでいます。しかし、愛はそのような自己中心的なものではありません。このことは、このあとに続く言葉によってさらに明らかです。

3.高ぶらない(フシオオー)。「フシオオー」という動詞は、I コリント 8:1 のパウロの注目すべき言葉の中に登場します。「知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる」〔口語訳「知識は人を誇らせ、愛は人の徳を高める」〕。これは、うぬぼれで慢心した人を指しています。

4.礼を失しない(アスケモネオー)。「アスケモネオー」という動詞には、幅広い意味がありますが、一般的には、不名誉で、恥ずべき、下品で、不適切な方法で、社会的・道徳的基準に反して行動することを意味します。パウロはおそらく、コリントの「弱い」教会員に対する「強い」グループの傲慢で粗野な振る舞いに言及しているのでしょう(I コリ 4:10、同 8章)。

5.自分の利益を求めない(ゼーテオー)。これは、パウロが I コリント 10:24 で述

べていることと似ています。「だれでも、自分の利益ではなく他人の利益を追い求めなさい」〔口語訳「だれでも、自分の益を求めないで、ほかの人の益を求めるべきである」〕。愛は、他者のために自分の利益を放棄します(第5課参照)。誰もが互いの利益を求める状況では、全員が利益を得ます。

6. いらだたない(パロクシュノー)。「パロクシュノー」という動詞は、内面的な興奮状態を示唆しており、怒りっぽさをあらわします。これは、愛が短気でも神経質でもないことを意味します。

7. 恨みを抱かない(ロギゾマイ)。「ロギゾマイ」という動詞は、ここでは会計的な意味を持っており、愛はほかの人の過ちを勘定に入れないということの意味します。言い換えれば、愛は赦すことでもあるのです。

8. 不義を喜ばない(カイロー)。愛は、ほかの人の過ちを記録しないだけでなく、それを喜ぶこともありません。真にほかの人を愛するとき、私たちはその過ちを喜ぶのではなく、むしろ助けようとします。

49

I コリ 13:4~7 (新共同訳)

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

13:7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

I コリ 12:31 (新共同訳)

12:31 あなたがたは、もっと大きな賜物を受けるよう熱心に努めなさい。

I コリ 14:1 (新共同訳)

14:1 愛を追い求めなさい。霊的な賜物、特に預言するための賜物を熱心に求めなさい。

I コリ 3:3 (新共同訳)

3:3 相変わらず肉の人だからです。お互いの間にねたみや争いが絶えない以上、あなたがたは肉の人であり、ただの人として歩んでいる、ということになりはしませんか。

I コリ 8:1 (新共同訳)

8:1 偶像に供えられた肉について言えば、「我々は皆、知識を持っている」ということは確かです。ただ、知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。

I コリ 4:10 (新共同訳)

4:10 わたしたちはキリストのために愚

I コリ 13:4~7 (口語訳)

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

13:7 そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを耐える。

I コリ 12:31 (口語訳)

12:31 だが、あなたがたは、更に大いなる賜物を得ようと熱心に努めなさい。そこで、わたしは最もすぐれた道をあなたがたに示そう。

I コリ 14:1 (口語訳)

14:1 愛を追い求めなさい。また、霊の賜物を、ことに預言することを、熱心に求めなさい。

I コリ 3:3 (口語訳)

3:3 あなたがたはまだ、肉の人だからである。あなたがたの間に、ねたみや争いがあるのは、あなたがたが肉の人であって、普通の人間のように歩いているためではないか。

I コリ 8:1 (口語訳)

8:1 偶像への供え物について答えると、「わたしたちはみな知識を持っている」ことは、わかっている。しかし、知識は人を誇らせ、愛は人の徳を高める。

I コリ 4:10 (口語訳)

4:10 わたしたちはキリストのゆえに愚

か者となっているが、あなたがたはキリストを信じて賢い者となっています。わたしたちは弱い、あなたがたは強い。あなたがたは尊敬されているが、わたしたちは侮辱されています。

Ⅰコリ 8 章 (新共同訳)

8:1 偶像に供えられた肉について言えば、「我々は皆、知識を持っている」ということは確かです。ただ、知識は人を高ぶらせるが、愛は造り上げる。

8:2 自分は何か知っていると思う人がいたら、その人は、知らねばならぬことをまだ知らないのです。

8:3 しかし、神を愛する人がいれば、その人は神に知られているのです。

8:4 そこで、偶像に供えられた肉を食べることについては、世の中に偶像の神などはなく、また、唯一の神以外にいかなる神もないことを、わたしたちは知っています。

8:5 現に多くの神々、多くの主がいると思われているように、たとえ天や地に神々と呼ばれるものがないと、

8:6 わたしたちにとっては、唯一の神、父である神がおられ、万物はこの神から出、わたしたちはこの神へ帰って行くのです。また、唯一の主、イエス・キリストがおられ、万物はこの主によって存在し、わたしたちもこの主によって存在しているのです。

8:7 しかし、この知識がだれにでもあるわけではありません。ある人たちは、今までの偶像になじんできた習慣にとらわれて、肉を食べる際に、それが偶像に供えられた肉だということが念頭から去らず、良心が弱いために汚されるのです。

8:8 わたしたちを神のもとに導くのは、食物ではありません。食べないからといって、何かを失うわけではなく、食べたからといって、何かを得るわけではありません。

8:9 ただ、あなたがたのこの自由な態度が、弱い人々を罪に誘うことにならないように、気をつけなさい。

8:10 知識を持っているあなたが偶像の神殿で食事の席に着いているのを、だれが見ると、その人は弱いのに、その良

かな者となり、あなたがたはキリストにあつて賢い者となっている。わたしたちは弱い、あなたがたは強い。あなたがたは尊ばれ、わたしたちは卑しめられている。

Ⅰコリ 8 章 (口語訳)

8:1 偶像への供え物について答えると、「わたしたちはみな知識を持っている」ことは、わかっている。しかし、知識は人を誇らせ、愛は人の徳を高める。

8:2 もし人が、自分は何か知っていると思うなら、その人は、知らなければならぬほどの事すら、まだ知っていない。

8:3 しかし、人が神を愛するなら、その人は神に知られているのである。

8:4 さて、偶像への供え物を食べることにについては、わたしたちは、偶像なるものは実際は世に存在しないこと、また、唯一の神のほかには神がないことを、知っている。

8:5 というのは、たとい神々といわれるものが、あるいは天に、あるいは地にあるとしても、そして、多くの神、多くの主があるようではあるが、

8:6 わたしたちには、父なる唯一の神のみがいますのである。万物はこの神から出て、わたしたちもこの神に帰する。また、唯一の主イエス・キリストのみがいますのである。万物はこの主により、わたしたちもこの主によっている。

8:7 しかし、この知識をすべての人が持っているのではない。ある人々は、偶像についての、これまでの習慣上、偶像への供え物として、それを食べるが、彼らの良心が、弱いために汚されるのである。

8:8 食物は、わたしたちを神に導くものではない。食べなくても損はないし、食べても益にはならない。

8:9 しかし、あなたがたのこの自由が、弱い者たちのつまずきにならないように、気をつけなさい。

8:10 なぜなら、ある人が、知識のあるあなたが偶像の宮で食事をしているのを見た場合、その人の良心が弱いため、それ

心が強められて、偶像に供えられたものを食べるようにならないだろうか。

8:11 そうなると、あなたの知識によって、弱い人が滅びてしまいます。その兄弟のためにもキリストが死んでくださったのです。

8:12 このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、彼らの弱い良心を傷つけるのは、キリストに対して罪を犯すことなのです。

8:13 それだから、食物のことがわたしの兄弟をつまずかせるくらいなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは今後決して肉を口にしません。

I コリ 10:24 (新共同訳)

10:24 だれでも、自分の利益ではなく他人の利益を追い求めなさい。

に「教育されて」、偶像への供え物を食べるようにならないだろうか。

8:11 するとその弱い人は、あなたの知識によって滅びることになる。この弱い兄弟のためにも、キリストは死なれたのである。

8:12 このようにあなたがたが、兄弟たちに対して罪を犯し、その弱い良心を痛めるのは、キリストに対して罪を犯すことなのである。

8:13 だから、もし食物がわたしの兄弟をつまずかせるなら、兄弟をつまずかせないために、わたしは永久に、断じて肉を食べることはしない。

I コリ 10:24 (口語訳)

10:24 だれでも、自分の益を求めないで、ほかの人の益を求めるべきである。

水曜日 8月12日 イエスの姿

I コリント13:4～7を読むと、私たちは、程度の差こそあれ、自分がその愛の特徴すべてをあらわすことができていないことに気づき、もどかしさを覚えるかもしれません。おそらくパウロは、この章を書いたとき、イエスのことを念頭に置いていたのでしょう。実際、キリストだけがこれらの愛の特徴すべてを完全にあらわすことがおできになりました。ですから、パウロが描く愛の姿は、結局のところ、イエスの姿なのです。

問4 ヨハネ 13:1、34、15:9、12、I テモテ 1:14、I テモテ 1:7、13、I ヨハネ 3:16、4:7～12、19～21 を読んでください。これらの箇所から、愛について何を学ぶことができるでしょうか。

神は愛です(Iヨハ4:8)。神は私たちを深く愛し、独り子を与えてくださいました(ヨハ3:16)。イエスはこの愛の完全なあらわれです(ヘブ1:3)。愛がどのようにあらわれるかを知りたいなら、イエスをじっくり見つめなければなりません。新約聖書におけるイエスの姿に注意深く目を向けるなら、I コリント13章に記されている愛の肯定的な特徴がすべてイエスのうちに見られることに気づくでしょう。

イエスは忍耐強い——「しかし、わたしが憐れみを受けたのは、キリスト・イエスがまずそのわたしに限りない忍耐[マクロテュミア]をお示しになり、わたしがこの方を信じて永遠の命を得ようとしている人々の手本となるためでした」〔口語訳「しかし、わたしがあわれみをこうむったのは、キリスト・イエスが、まずわたしに対して限りない寛容を示し、そして、わたしが今後、彼を信じて永遠のいのちを受ける者の模範となるためである」〕(I テモ 1:16)。

イエスは恵み深い——聖書は、「主(は)恵み深い方だ」〔口語訳「主が恵み深いかたである」〕(Ⅰペト[ペテ]2:3)と述べています。この箇所「主」という言葉は、イエスを指しています。「恵み深い」という言葉は、ギリシア語の「クレストス」を訳したもので、Ⅰコリント13:4の「クレストウオマイ」(「情けを示す」という動詞と同根です。

イエスは真理を喜ばれる——イエスは父なる神の御心に従い、その愛を感じながら、喜びを経験されました(ヨハ 15:9~11, 17:12~14)。

イエスはすべてを耐え忍ばれる——ヘブライ(ヘブル)12:2, 3には、イエスは「十字架の死を耐え忍び、……御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された」〔口語訳「十字架を忍び、……罪人らのこのような反抗を耐え忍んだ」〕とあります。イエスほど耐え忍ばれた人はいません(フィリ[ピリ]2:8)。

イエスはすべてを信じられる——パウロの回心が本物かどうかをアナニアが疑ったとき(使徒 9:13, 14)、「あの者は……わたしが選んだ器である」〔口語訳「あの人は……器として、わたしが選んだ者である」〕(同 9:15)と、イエスはお答えになりました。イエスは人々を、今の姿だけではなく、御力によって彼らがどうなるか、将来の姿をも見ておられるのです。

【参考】英語テキストにある英文

What are other ways that Jesus reveals to us what true love really is?

イエス様は、まことの愛とは一体何なのかを、他にどのような方法で私たちに示してくださっているのでしょうか。

50

Ⅰコリ 13:4~7 (新共同訳)

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

13:7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

ヨハ 13:1, 34 (新共同訳)

13:1 さて、過越祭の前のことである。イエスは、この世から父のもとへ移る御自分の時が来たことを悟り、世にいる弟子たちを愛して、この上なく愛し抜かれた。

13:34 あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。

ヨハ 15:9~12 (新共同訳)

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの

Ⅰコリ 13:4~7 (口語訳)

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

13:7 そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

ヨハ 13:1, 34 (口語訳)

13:1 過越の祭の前に、イエスは、この世を去って父のみもとに行くべき自分の時が来たことを知り、世にいる自分の者たちを愛して、彼らを最後まで愛し通された。

13:34 わたしは、新しいいましめをあなたがたに与える、互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

ヨハ 15:9~12 (口語訳)

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わた

愛にとどまりなさい。

15:10 わたしが父の掟を守り、その愛にとどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

15:11 これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。

15:12 わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。これがわたしの掟である。

I テモ 1:14 (新共同訳)

1:14 そして、わたしたちの主の恵みが、キリスト・イエスによる信仰と愛と共に、あふれるほど与えられました。

II テモ 1:7、13 (新共同訳)

1:7 神は、おくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊をわたしたちにくださったのです。

1:13 キリスト・イエスによって与えられる信仰と愛をもって、わたしから聞いた健全な言葉を手本としなさい。

I ヨハ 3:16 (新共同訳)

3:16 イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。

I ヨハ 4:7～12 (新共同訳)

4:7 愛する者たち、互いに愛し合いましょう。愛は神から出るもので、愛する者は皆、神から生まれ、神を知っているからです。

4:8 愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

4:9 神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。ここに、神の愛がわたしたちの内に示されました。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。

しの愛のうちにいなさい。

15:10 もしわたしのいましめを守るならば、あなたがたはわたしの愛のうちにいるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにいるのと同じである。

15:11 わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにも宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

15:12 わたしのいましめは、これである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。

I テモ 1:14 (口語訳)

1:14 その上、わたしたちの主の恵みが、キリスト・イエスにある信仰と愛と共に伴い、ますます増し加わってきた。

II テモ 1:7、13 (口語訳)

1:7 というのは、神がわたしたちに下さったのは、臆する霊ではなく、力と愛と慎みとの霊なのである。

1:13 あなたは、キリスト・イエスに対する信仰と愛とをもって、わたしから聞いた健全な言葉を模範にしなさい。

I ヨハ 3:16 (口語訳)

3:16 主は、わたしたちのためにいのちを捨てて下さった。それによって、わたしたちは愛ということを知った。それゆえに、わたしたちもまた、兄弟のためにいのちを捨てるべきである。

I ヨハ 4:7～12 (口語訳)

4:7 愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。

4:8 愛さない者は、神を知らない。神は愛である。

4:9 神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。

4:10 わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。

4:11 愛する者たち、神がこのようにわたしたちを愛されたのですから、わたしたちも互いに愛し合うべきです。

4:12 いまだかつて神を見た者はいません。わたしたちが互いに愛し合うならば、神はわたしたちの内にとどまってください、神の愛がわたしたちの内ですべて全うされているのです。

I ヨハ 4:19～21 (新共同訳)

4:19 わたしたちが愛するのは、神がまずわたしたちを愛してくださったからです。

4:20 「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者がいれば、それは偽り者です。目に見える兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することができません。

4:21 神を愛する人は、兄弟をも愛すべきです。これが、神から受けた掟です。

ヨハ 3:16 (新共同訳)

3:16 神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。

ヘブ 1:3 (新共同訳)

1:3 御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって、万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大いなる方の右の座にお着きになりました。

I テモ 1:16 (新共同訳)

1:16 しかし、わたしが憐れみを受けたのは、キリスト・イエスがまずそのわたしに限りない忍耐をお示しになり、わたしがこの方を信じて永遠の命を得ようとしている人々の手本となるためでした。

I ペト 2:3 (新共同訳)

2:3 あなたがたは、主が恵み深い方だということを味わいました。

ヨハ 15:9～11 (新共同訳)

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛してきた。わたしの愛にとどまりなさい。

15:10 わたしが父の掟を守り、その愛に

4:11 愛する者たちよ。神がこのようにわたしたちを愛して下さったのであるから、わたしたちも互に愛し合うべきである。

4:12 神を見た者は、まだひとりもない。もしわたしたちが互に愛し合うなら、神はわたしたちのうちにいまし、神の愛がわたしたちのうちに全うされるのである。

I ヨハ 4:19～21 (口語訳)

4:19 わたしたちが愛し合うのは、神がまずわたしたちを愛して下さったからである。

4:20 「神を愛している」と言いながら兄弟を憎む者は、偽り者である。現に見えている兄弟を愛さない者は、目に見えない神を愛することはできない。

4:21 神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである。この戒めを、わたしたちは神から授かっている。

ヨハ 3:16 (口語訳)

3:16 神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである。

ヘブ 1:3 (口語訳)

1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。

I テモ 1:16 (口語訳)

1:16 しかし、わたしがあわれみをこうむったのは、キリスト・イエスが、まずわたしに対して限りない寛容を示し、そして、わたしが今後、彼を信じて永遠のいのちを受ける者の模範となるためである。

I ペト 2:3 (口語訳)

2:3 あなたがたは、主が恵み深いかたであることを、すでに味わい知ったはずである。

ヨハ 15:9～11 (口語訳)

15:9 父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛したのである。わたしの愛のうちにいなさい。

15:10 もしわたしのいましめを守るなら

とどまっているように、あなたがたも、わたしの掟を守るなら、わたしの愛にとどまっていることになる。

15:11 これらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたの内にあり、あなたがたの喜びが満たされるためである。

ヨハ 17:12~14 (新共同訳)

17:12 わたしは彼らと一緒にいる間、あなたが与えてくださった御名によって彼らを守りました。わたしが保護したので、滅びの子のほかは、だれも滅びませんでした。聖書が実現するためです。

17:13 しかし、今、わたしはみもとに参ります。世にいる間に、これらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らの内に満ちあふれるようになるためです。

17:14 わたしは彼らに御言葉を伝えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世に属していないように、彼らも世に属していないからです。

ヘブ 12:2、3 (新共同訳)

12:2 信仰の創始者また完成者であるイエスを見つめながら。このイエスは、御自身の前にある喜びを捨て、恥をもちとわないで十字架の死を耐え忍び、神の玉座の右にお座りになったのです。

12:3 あなたがたが、氣力を失い疲れ果ててしまわないように、御自分に対する罪人たちのこのような反抗を忍耐された方のことを、よく考えなさい。

フィリ 2:8 (新共同訳)

2:8 ヘリくだって、死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。

使徒 9:13~15 (新共同訳)

9:13 しかし、アナニアは答えた。「主よ、わたしは、その人がエルサレムで、あなたの聖なる者たちに対してどんな悪事を働いたか、大勢の人から聞きました。

9:14 ここでも、御名を呼び求める人をすべて捕らえるため、祭司長たちから権限を受けています。」

9:15 すると、主は言われた。「行け。あの者は、異邦人や王たち、またイスラエル

ば、あなたがたはわたしの愛のうちにいるのである。それはわたしがわたしの父のいましめを守ったので、その愛のうちにいるのと同じである。

15:11 わたしがこれらのことを話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちに宿るため、また、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

ヨハ 17:12~14 (口語訳)

17:12 わたしが彼らと一緒にいた間は、あなたからいただいた御名によって彼らを守り、また保護してまいりました。彼らのうち、だれも滅びず、ただ滅びの子だけが滅びました。それは聖書が成就するためでした。

17:13 今わたしはみもとに参ります。そして世にいる間にこれらのことを語るのは、わたしの喜びが彼らのうちに満ちあふれるためであります。

17:14 わたしは彼らに御言を与えましたが、世は彼らを憎みました。わたしが世のものではないように、彼らも世のものではないからです。

ヘブ 12:2、3 (口語訳)

12:2 信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つ、走ろうではないか。彼は、自分の前におかれている喜びのゆえに、恥をもちとわないで十字架を忍び、神の御座の右に座するに至ったのである。

12:3 あなたがたは、弱り果てて意気そそぐしないために、罪人らのこのような反抗を耐え忍んだかたのことを、思いみるべきである。

ピリ 2:8 (口語訳)

2:8 おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。

使徒 9:13~15 (口語訳)

9:13 アナニヤは答えた、「主よ、あの人がエルサレムで、どんなにひどい事をあなたの聖徒たちにしたかについては、多くの人たちが聞いています。

9:14 そして彼はここでも、御名をとねえる者たちをみな捕縛する権を、祭司長たちから得てきているのです。」

9:15 しかし、主は仰せになった、「さあ、行きなさい。あの人は、異邦人たち、王

の子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。

たち、またイスラエルの子らにも、わたしの名を伝える器として、わたしが選んだ者である。

木曜日 8月13日 信仰、希望、愛

これまで、愛とは忍耐強く、情け深く、喜びに満ち、耐える力があり、信じ、希望に満ち、耐える(粘り強い)ものであることを学びました。なぜなら、イエスがこれらすべてを備えておられるからです。イエスのうちにこれらの特質を見いだしたなら、次の段階はイエスに倣うことです。これこそが、パウロがコリントの信徒に望んだことでした。しかし、愛がしない八つの否定的な特徴から「ない」を取り除くと、「コリントの信徒が教会内でどんな振る舞いをしていたか、はっきり見えてくる。彼らは、ねたみ深く、自慢好きで、傲慢で、無礼で、利己的で、すぐに腹を立て、ほかの人がどんな間違ったことをしているか、見張っていたのだ。パウロは、コリントの信徒の状況に合わせてここで使う動詞を選んでいく」(バーリン・D・バーブリュッジ「コリントの信徒への手紙Ⅰ」『エクスポジターズ聖書注解——ローマの信徒への手紙〜ガラテヤの信徒への手紙』改訂版 372 ページ、英文)。

【参考】—Verlyn D. Verbrugge, “1 Corinthians,” in *The Expositor’s Bible Commentary: Romans–Galatians*, revised edition, p. 372.

“we get a pretty good description of the Corinthians’ conduct within their church circle: envious, boasting, arrogant, rude, self-seeking, easily offended, and looking to see what others were doing wrong. Paul is tailoring the verbs he uses here to the Corinthian situation.”

コリントの信徒には、学ぶべきことがたくさんありました。私たちも同じです。パウロは、愛がどんなことをし、どんなことをしないかを説明したあと、真の愛の実践を促すために、愛が永遠に続くものであることを強調して、この箇所を締めくくっています。

いつの日か、預言はもはや不要になり、私たちはただ一つの言語を話すようになり、不完全な人間の知識は、神についての新しい知識に取って代わられるでしょう(Ⅰコリ 13:12)。聖霊の賜物は、その目的が達成されたときにのみ消滅しますが(同 13:10)、「愛は決して滅びない」[口語訳「愛はいつまでも絶えることがない」](同 13:8)のです。

同様に、キリストが戻られるとき、信仰は目に見えるものにと取って代わられ(Ⅱコリ 5:7)、私たちが長い間待ち望んできたものが現実となります(ロマ 8:24)。そして何よりも、愛は三位一体の神の品性の典型として存続しますが、ある意味において、信仰と希望も永遠に続くと言えます。信仰は、救いの経験として(同 4:3)、希望は、新しい地における新たな喜びと知識への願望や期待として、あがなわれた者たちの経験を永遠に特徴づけるでしょう。しかし、愛、神の愛は、永遠に増え広がるのです。

間もなく、私たちは顔と顔を合わせて主にお会いします(Ⅰコリ 13:12)。その日が

来るまで、私たちは信仰、希望、愛という三つの徳で人生を特徴づけるべきです。この三つの組み合わせは、聖霊によるクリスチャン生活の豊かさをあらわしています。だからこそ、クリスチャンの間では、しばしばこの三つの徳が言及されてきました(ロマ 5:1～5、ガラ 5:5、6、エフェ[エペ] 1:15、18、4:1～5)。しかし、最も大いなるものは、愛です。結局のところ、それは神ご自身の本質をあらわすのに用いられる唯一の徳なのです(1ヨハ 4:8)。

「神は愛である」という言葉について、じっくり考えてみましょう。

【参考】英語テキストにある全文

Dwell on the statement “God is love.” How are we supposed to understand exactly what that means? And though we can grasp the idea only in part, why is that phrase such good news for us?

「神は愛である」という言葉について、じっくり考えてみましょう。その言葉が具体的に何を意味するのか、私たちはどのように理解すべきなのでしょう。また、その意味を部分的にしか理解できないとしても、なぜこの言葉は私たちにとってこれほどまでに良い知らせとなるのでしょうか。

51

I コリ 13:8～13 (新共同訳)

13:8 愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

13:9 わたしたちの知識は一部分、預言も一部分だから。

13:10 完全なものが来たときには、部分的なものは廃れよう。

13:11 幼子だったとき、わたしは幼子のように話し、幼子のように思い、幼子のように考えていた。成人した今、幼子のことを棄てた。

13:12 わたしたちは、今は、鏡におぼろに映ったものを見ている。だがそのときには、顔と顔を合わせて見ることになる。わたしは、今は一部しか知らなくとも、そのときには、はっきり知られているようにはっきり知ることになる。

13:13 それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

II コリ 5:7 (新共同訳)

5:7 目に見えるものによらず、信仰によって歩んでいるからです。

I コリ 1:8～13 (口語訳)

13:8 愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるであろう。

13:9 なぜなら、わたしたちの知るところは一部分であり、預言するところも一部分にすぎない。

13:10 全きものが来る時には、部分的なものはすたれる。

13:11 わたしたちが幼な子であった時には、幼な子らしく語り、幼な子らしく感じ、また、幼な子らしく考えていた。しかし、おとなとなった今は、幼な子らしいことを捨ててしまった。

13:12 わたしたちは、今は、鏡に映して見るようにおぼろげに見ている。しかしその時には、顔と顔を合わせて、見るであろう。わたしの知るところは、今は一部分にすぎない。しかしその時には、わたしが完全に知られているように、完全に知るであろう。

13:13 このように、いつまでも存続するものは、信仰と希望と愛と、この三つである。このうちで最も大いなるものは、愛である。

II コリ 5:7 (口語訳)

5:7 わたしたちは、見えるものによらないで、信仰によって歩いているのである。

ロマ 8:24 (新共同訳)

8:24 わたしたちは、このような希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見えているものをだれがなお望むでしょうか。

ロマ 4:3 (新共同訳)

4:3 聖書には何と書いてありますか。「アブラハムは神を信じた。それが、彼の義と認められた」とあります。

ロマ 5:1~5 (新共同訳)

5:1 このように、わたしたちは信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストによって神との間に平和を得ており、

5:2 このキリストのお陰で、今の恵みに信仰によって導き入れられ、神の栄光にあずかる希望を誇りにしています。

5:3 そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです、苦難は忍耐を、

5:4 忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。

5:5 希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。

ガラ 5:5、6 (新共同訳)

5:5 わたしたちは、義とされた者の希望が実現することを、“霊”により、信仰に基づいて切に待ち望んでいるのです。

5:6 キリスト・イエスに結ばれていれば、割礼の有無は問題ではなく、愛の実践を伴う信仰こそ大切です。

エフェ 1:15、18 (新共同訳)

1:15 こういうわけで、わたしも、あなたがたが主イエスを信じ、すべての聖なる者たちを愛していることを聞き、

1:18 心の目を開いてくださるように。そして、神の招きによってどのような希望が与えられているか、聖なる者たちの受け継ぐものがどれほど豊かな栄光に輝いているか悟らせてくださるように。

エフェ 4:1~5 (新共同訳)

4:1 そこで、主に結ばれて囚人となっているわたしはあなたがたに勧めます。神

ロマ 8:24 (口語訳)

8:24 わたしたちは、この望みによって救われているのである。しかし、目に見える望みは望みではない。なぜなら、現に見えている事を、どうして、なお望む人があるうか。

ロマ 4:3 (口語訳)

4:3 なぜなら、聖書はなんとやっているか、「アブラハムは神を信じた。それによって、彼は義と認められた」とある。

ロマ 5:1~5 (口語訳)

5:1 このように、わたしたちは、信仰によって義とされたのだから、わたしたちの主イエス・キリストにより、神に対して平和を得ている。

5:2 わたしたちは、さらに彼により、いま立っているこの恵みに信仰によって導き入れられ、そして、神の栄光にあずかる希望をもって喜んでいる。

5:3 それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、

5:4 忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを、知っているからである。

5:5 そして、希望は失望に終ることはない。なぜなら、わたしたちに賜わっている聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからである。

ガラ 5:5、6 (口語訳)

5:5 わたしたちは、御霊の助けにより、信仰によって義とされる望みを強くいっている。

5:6 キリスト・イエスにあっては、割礼があってもなくても、問題ではない。尊いのは、愛によって働く信仰だけである。

エペ 1:15、18 (口語訳)

1:15 こういうわけで、わたしも、主イエスに対するあなたがたの信仰と、すべての聖徒に対する愛とを耳にし、

1:18 あなたがたの心の目を明らかにして下さるように、そして、あなたがたが神に召されていただいている望みがどんなものであるか、聖徒たちがつぐべき神の国がいかに栄光に富んだものであるか、

エペ 4:1~5 (口語訳)

4:1 さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召さ

から招かれたのですから、その招きにふさわしく歩み、

4:2 一切高ぶることなく、柔和で、寛容の心を持ちなさい。愛をもって互いに忍耐し、

4:3 平和のきずなで結ばれて、霊による一致を保つように努めなさい。

4:4 体は一つ、霊は一つです。それは、あなたがたが、一つの希望にあずかるようにと招かれているのと同じです。

4:5 主は一人、信仰は一つ、洗礼は一つ、

Iヨハ 4:8 (新共同訳)

4:8 愛することのない者は神を知りません。神は愛だからです。

れたその召しにふさわしく歩き、

4:2 できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、

4:3 平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。

4:4 からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。

4:5 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。

Iヨハ 4:8 (口語訳)

4:8 愛さない者は、神を知らない。神は愛である。

金曜日 8月14日 さらなる研究

「口先で、どんなに立派なことを言っても、もし心の中に、神と同胞に対する愛が満ちていなければ、キリストの真の弟子ではない。大いなる信仰を持ち、奇跡を行うほどの力があっても、もし愛がなければ、その信仰は価値がない。また、大いなる施しが行われるかもしれない。しかし、それが真の愛以外の動機によって行われたとするならば、自分の全財産を人に施しても、その行為によって神の恵みにあずかることはできない。また、熱心さのあまり、殉教の死を遂げることさえするかもしれない。しかし、もしそれが愛の動機によるものでなければ、神は彼を、惑わされた熱狂家、あるいは野心的偽善者とみなされることであろう」(『希望への光』1476 ページ、『患難から栄光へ』第30章)。

「私たちはあふれるほどの説教に囲まれている。だが、最も必要とされるのは、……滅びゆく魂への愛、神の御座から豊かな流れとなってもたらされる愛である。真のキリスト教は、人の全存在に愛を行き渡らせる。愛は、脳、心、他者を助ける手、足など、あらゆる重要な部分に触れ、神が求めておられる場所に彼らがしっかりと立てるようにする。そうして、足の不自由な者が道を踏み外すことがないように、彼らの足のために道を平らにするのである。滅びゆく魂に対するキリストの燃えるような激しい愛こそが、キリスト教という宗教体系全体の命なのだ」(エレン・ホワイト『彼を高く掲げよ』134 ページ、英文)。

【参考】 — Ellen G. White, Lift Him Up, p. 134

“We have an abundance of sermonizing. What is most needed . . . is love for perishing souls, that love which comes in rich currents from the throne of God. True Christianity diffuses love through the whole being. It touches every vital part, the brain, the heart, the helping hands, the feet, enabling men to stand firmly where God requires them to stand, so that they will not make crooked paths for their feet, lest the lame be turned out of the way. The burning, consuming love of Christ for perishing souls is the life of the whole system of Christianity.”

「癒やすことができるのは、キリストの心から流れ出る愛だけです。木に流れる

樹液や体に流れる血液のように、そのような愛がうちに流れる人だけが、傷ついた心を癒やせるのです」(『真の教育』128 ページ)。

話し合いのための質問

- ① パウロが挙げた愛の肯定的な側面はすべてを含んでいると思いますか。もしそうでないとしたら、ほかにどんな要素をリストに加えますか。
- ② 「愛を追い求めなさい」(Ⅰコリ 14:1)というパウロの命令は、どんな意味だと思いますか。この命令は、Ⅰコリント 13:4~7で彼が言っていることと、どんな関係があるのでしょうか。
- ③ あなたが日常生活の中で最も実践する必要がある愛の特徴は、どれですか。あなたの所属教会では、どの特徴がより必要ですか。ところで、パウロはなぜ愛を、預言、異言、知識などの賜物と比較しているのでしょうか(Ⅰコリ 13:8)。
- ④ パウロは、愛がコリント教会員の間の一致の欠如に対する究極の解決策であると示唆しています。なぜでしょうか。このことは、今日の私たちの教会にどう当てはまりますか。

52

Ⅰコリ 14:1 (新共同訳)

14:1 愛を追い求めなさい。霊的な賜物、特に預言するための賜物を熱心に求めなさい。

Ⅰコリ 13:4~8 (新共同訳)

13:4 愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。

13:5 礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。

13:6 不義を喜ばず、真実を喜ぶ。

13:7 すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

13:8 愛は決して滅びない。預言は廃れ、異言はやみ、知識は廃れよう、

Ⅰコリ 14:1 (口語訳)

14:1 愛を追い求めなさい。また、霊の賜物を、ことに預言することを、熱心に求めなさい。

Ⅰコリ 13:4~8 (口語訳)

13:4 愛は寛容であり、愛は情深い。また、ねたむことをしない。愛は高ぶらない、誇らない。

13:5 不作法をしない、自分の利益を求めない、いらだたない、恨みをいだかない。

13:6 不義を喜ばないで真理を喜ぶ。

13:7 そして、すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。

13:8 愛はいつまでも絶えることがない。しかし、預言はすたれ、異言はやみ、知識はすたれるであろう。

【参考】副読本にある《概要》を転載します。

パウロによるコリントの信徒への手紙Ⅰ(コリント人への第一の手紙)13章における愛の描写は、究極的なイエスの肖像です。愛は、寛容であり、親切で、喜びに満ち、すべてに耐え、信じ、希望に満ち、忍ぶことができます。なぜなら、イエスはこれらすべてだからです。イエスを心に迎え入れた者は、これらの性質、すなわち御霊の実(ガラテヤ 5:22,23)と呼ばれるものを育んでいきます。愛がなければ、何の意味もありません。どんなにすばらしい業績でさえ、本物の愛によらなければ、無意味で空虚なものです。クリスチャンは、聖霊の力によってこれらの徳を追い求めなければなりません。愛、信仰、希望を育まなければなりません。特に愛こそが、何よりも偉大なものだを知っているからです。